

一層の連携強化を確認した
八戸産学官連携推進会議の
メンバー20日、八戸市庁



持続的なまちづくりへ連携

八戸市と八戸商工会議所、八戸学院大、八戸学院大短期大学部、八戸工業大、八戸高専の6者による「八戸産学官連携推進会議（会長・熊谷雄一市長）は20日、市庁で会を開き、人口減少や少子高齢化の克服に向け、連携を強化して人材確保や産業振興などに取り組む方針を示した。各構成団体が特色を生かし、医療人材の育成や市のビッグデータを活用した教育の推進、外国人材の受け入れに関するフォ

八戸産学官連携推進会議

ラム開催などを実施する。同会議は今年2月、地域シンクタンクとして政策課題を調査研究していた「市都市研究検討会」と統合。事務局も八戸大から市に移して新体制となり、若者の定着による持続的なまちづくりを目指す「八戸未来創造中長期計画」の見直しに着手している。

熊谷市長は「持続可能なまちを作るには行政のみならず、産業界や高等教育機関との連携が極めて重要。私のリーダーシップのもと、連携をより強固なものとし、取り組みを発展させると決意を述べた。

具体的には、市の持つビッグデータを活用した授業の展や、八工大の熟練外国人労働育成プログラム、人材確保に向けた八工大と八学短大の組織編などを、同会議の取り組み位置づける。

八高専は共同研究する企業誘致や防災拠点機能の強化、議所は外国人採用に関するプログラムを実施するなどし、地の魅力向上に努める。

（田村 祐）